

会議等議事要旨記録票

| | | | |
|-------|---|-------|------------------------|
| 日 時 | 令和3年6月8日（水曜日）午後1時00分から午後2時00分まで | | |
| 場 所 | 27A会議室（Web会議） | | |
| 会議等名 | リスクコミュニケーションチーム会議 | | |
| 議 題 | 今年度の活動内容等についての意見交換 等 | | |
| 参 加 者 | チームメンバー、福祉保健局関係課長等 | | |
| 配付資料 | なし | | |
| 主な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・本年度リスクチームとして実施したいと考えていることは以下のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自宅療養者・宿泊療養者アンケート調査結果の取りまとめ・公表 2. 3月に実施した都民意識アンケート調査（本調査）のデータの再分析 3. A) 質問項目数・サンプル数ともに絞った小回りのきくアンケート調査（質問項目としては例えばマスク・ワクチン等に絞る） <ol style="list-style-type: none"> B) 質問項目数の多いサンプル数1万人規模のアンケート調査（パンデミックの中で人々の意識と行動がどう変わるのかについてまとめることを目的） 4. 大学での事例などのベストプラクティス共有 5. メディアとの勉強会・意見交換会 また、できれば、パンデミックの初期、中期、終息期でそれぞれどのようなリスクコミュニケーションをすべきかについても総括をしていきたい。 ・アンケートについては、回答者の行動を直接尋ねるのではなく、「あなたの周りの人はワクチンについてどう思っていますか」という質問の形にすることも考えられる。米大統領選の世論調査では、このような質問の方が実態を反映した回答が得られるという結果がでている。 ・学生の大学生活を犠牲にしない感染対策のベストプラクティスを作り、それを都で紹介し、横展開できるとよい。 ・リスクコミュニケーションには、広報、広聴、対話がある。対話は平時から行うことが大事であり、iCDCでも平時から実施できるとよい。 ・メディア勉強会は、メディアとの対話の場とし、講義の場ではなく相互に学び合う場にできるとよい。そのためには情報を限定することも必要 | | |
| 作 成 者 | 計画課 上條 | 確 認 者 | 東京感染症対策センター担当 課長 石田 |